

♡ ことばの力 ♡ からだの力 ♡ こころの力

園長室だより



城南学園幼稚園 園長 太田友子 令和2年9月30日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園



「共に育てる」- 子どもの最善の利益 -

本園の方針の一つに、保護者の皆様と「共に育てる」があります。入園選考の親子面接では、この「共に育てる」という本園の方針にご理解とご協力をいただけるかとお尋ねさせていただきました。もちろんご賛同いただけての上でご入園をいただいています。このご縁を大切にしながら、子どもたちのよりよい成長のための環境づくりを進めていきたいと考えています。

3歳児では、家庭生活から幼稚園生活への大きな変化を乗り越える時期です。家庭では家族とともに生活をしてきたので、あうんの呼吸で理解できるというメリットがある反面、言葉を十分に理解しなくても過ごせるため、親御さんも子どもの「困り感」に気づきにくいというデメリットがあります。

園生活では、保育者の発問や指示を受けて活動しながら、言葉の理解を促すことをねらいとしています。また、状況の変化に不安を感じがちですが、見通しをもてるように様々な支援が必要となってきます。

「共に育てる」のねらいの一つは、「子どもの困り感」を共通理解することです。そして、子どもを支援する具体的な方法を共に見出していくことです。その際、専門機関等のアドバイスなどを参考に、家と園で取り組んでいく場合もあります。

次に、4歳児ですが、生活習慣の確立が最大の課題となります。ベネッセの研究結果からも、幼児期における生活習慣の確立がその後の学力の基盤となるとあります。今一度、家庭生活を見直し、余裕をもって登園できるよう、就寝の時刻、睡眠時間、朝食、排泄など、生涯にわたる生活基盤となる生活習慣を確立できるよう、お願いします。また、「ご機嫌さん」で登園できるよう、家庭での環境整備にも努めてください。

5歳児では、園生活での見通しをもてるようになるので、自分から活動できることをねらいとしています。また、この時期になると感情も大人とほぼ同様に豊かに育ってきます。嬉しい、悲しいなど単純な感情から、羨望、嫉妬、失望など複雑化していきます。言葉の表現はまだまだ拙い分、子どもの感情を理解することが肝要となります。さらに、小学校への進学に対して憧れと喜びをもてるよう、大人の価値付ける言葉かけが重要になります。例えば、失敗をしたとき、よい経験をしたという価値付けを意識してするなど、前向きな言葉かけがその後の自信につながるといわれています。



爽りの秋の到来！

～ 万全な体調管理で登園を ～

暑かった夏も終わり、ようやく秋の訪れが感じられる過ごしやすい季節になりました。

今、園では運動会にむけて練習中です。きっとお家でも子どもたちはお話したり実際に演じて見せてくれたりとしていることでしょう。

運動会では、発達段階に応じて、取り組みを繰り返す中で、みんなと一緒に活動する楽しさを味わったり、やりとげる粘り強さを身に付けたり、そして何よりもグラウンドまで歩道橋を上り下りしたりすることを通して体の力を付けたりすることをねらいとしています。

しかしながら、今年は、通常保育の開始が遅れたため、保育活動が十分とはいえない状況です。子どもたちの育ちを十分に踏まえながら、練習を積み重ねていきたいと考えています。

つきましては、保護者の皆様には、これまでどおり、毎朝の検温など、健康観察に十分にご留意ください。

例年と違いますので、念のため、早目に休ませることを、是非こころがけてあげてください。

非認知能力 - 認知能力の土台 -



アメリカの経済学者ヘックマン博士の研究によって、幼児期における非認知能力の育成が人生にどう関わるかについての関心が一気に高まっています。その研究結果からは、「人生で成功するかどうかは、認知スキルだけでは決まらない。非認知的な要素、すなわち心身の健康や、根気強さ、注意深さ、意欲、自信といった社会的・情動的な性質もまた欠かせない」と、**幼児期の教育の重要性**を発表しました。

日本では、学習塾などの入試教育やテストの成績、IQ など認知的能力の中の、いわゆる「読み・書き・計算」的な物差しで子どもの能力を図ろうとする傾向が強くなります。先取り教育を行っても、数年後には通常の教育を受けた子に追いつかれてしまうのです。

園では、メタ認知を促す「振り返り」活動を取り入れ、非認知能力を育てているところです。自分の状況を把握する、すぐに立ち直るなども非認知能力と言われて

